

令和 5年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第 2 回 支援ネットワーク連絡会	参加者数	36 人	会場	伊那市まちづくりセンター3階 第1～3研修室
	日時	令和 5 年 11 月 30 日 (木) 15:30 ～ 17:30				
主 テ マ	<p>1 外国語の地域資源について 市町村へのアンケートの結果説明 2 養護学校通学に関して 3 義務教育終了後の支援体制について</p>					
	<p>1 外国語の地域資源について 1) 市町村へのアンケートの結果説明 ・各市町村の通訳者は事業内・勤務形態・所属部署・業務範囲・勤務時間等異なるため、利用の際は市町村へ事前相談をする。 ・資料を児童のサービス事業所に情報提供していく。 2) 県の通訳に関する相談機関について ・長野県多文化共生センターの紹介をした。 ・こどもサービス連絡会で情報共有済み。</p> <p>2 養護学校通学に関して 1) アンケートの結果説明と課題 ・就学する際の通学について、家族の生活に影響を与える事柄について不明確になりやすい。見落としのない体制づくりが必要。 2) 中川村の取り組みについて ・村独自の障がい者通学支援事業等の説明 ・村内にはバスの乗車場所がない為、小学部生はバス停留所まで保護者が送迎、高等部生は駅まで巡回バス・乗り合いタクシーか保護者が学校または駅まで送迎している状況である。 ・中等部以上は送迎バスの空席がないと利用できない。今後も県や保護者と相談しながらできる範囲の支援を検討していく。 3) 南箕輪村の取り組みについて ・朝の預かり事業(南箕輪村社会福祉協議会)の説明 養護学校の登校時刻は9時のため、両親がフルタイムで働く家庭は受け入れ時間までの預かりと送迎についての困り感があった。 養護学校に朝の受け入れを早めるよう要望したが、課題が多く困難な状況だった。通学も大切な学校生活の一部として学校と共に解決について考えてきたい。 4) 養護学校より ・送迎バスを増やしてきたが、高等部も利用可となると定員オーバーになってしまう。バス停の設置条件をクリアする場所も限られる。また、ひとり親世帯も多く、家庭内で対応しきれない現状もある。行政の対応・地域連携により子ども達が学べているため、今後も協力をお願いしたい。</p> <p>3 義務教育終了後の支援体制について 1) 長野県子ども・若者サポートネットの事業説明 ・ニート、ひきこもり、不登校、発達障がい等、子ども・若者が抱える問題が深刻な中、支援機関同士が連携しながら効果的に支援を行うため、東信・南信・中信・北信地域に「子ども・若者サポートネット」を設置している。 ・業務内容は、個別ケース検討会議の開催、全体調整会議の開催(年1回)、各種相談支援の実施、居場所の運営・連携づくり等。 ・高校生は行政が把握しきれていない状況のため、途中退学等の恐れのある生徒を把握し連携・支援を推進していく。そ</p>					
ま と め	<p>外国籍児等に関する通訳の社会資源の共有をした。また、特別支援学校通学に関する課題について、意見交換が出来た。義務教育終了後の支援体制についてこども若者サポートネットの実践報告や活用方法も共有できた。</p>					
次 回						